

新年のごあいさつ

あけましておめでとうございます。
市民の皆さまには、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

❖ 昨年を振り返って

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、感染力の強い変異株の確認などにより、連日多数の陽性者が確認され、不要不急の外出自粛や飲食店等の時短営業、施設やイベント等の制限により、市民生活や経済活動への影響が長期化したしました。

本市においても市民の大切な命と生活を守るため、ワクチン接種をはじめとする感染拡大防止と経済活動維持の両立に取り組んだ一年でありました。

そうした非常に厳しい状況ではありましたが、嬉しい話題もありました。

ひとつは、本市出身の星野陸也選手と畑岡奈紗選手の東京2020オリンピック・ゴルフ競技への出場です。二人の成長と活躍は、私たち市民に夢と希望を与えてくれました。

また、笠間芸術の森公園内に国内最大級のスケートパーク「ムラサキパークかさま」の開園や笠間のゲートウェイとなる「道の

駅かさま」、訪れる誰もが楽しく利用できるインクルーシブ施設「笠間中央公園」のオープンなど、活力ある地域づくりに向けた新たな一歩を踏み出しました。



道の駅かさま

❖ 新年の抱負

コロナ禍を契機とした生活環境の変化と同時に、急速な人口の減少や少子高齢化の進行、インフラの老朽化、自然災害の増加など、課題が多岐にわたっています。また、デジタル化や業務のリモート化などの社会

的な潮流や、新しいライフスタイルに対応するための対策が必要となっています。

本市においても、脱炭素社会に向けた取り組みや多様な人材が活躍するダイバーシティの推進、既にある建物や資源を生まれ変わらせる拠点づくりなど、SDGsの理念を踏まえた持続可能なまちづくりを進めてまいります。

❖ ひとづくり

暮らしの安心感の向上と多様な人材育成と確保による「ひとづくり」を進めます。

新型コロナウイルスワクチン接種については、1・2回目の接種を受けた18歳以上の方を対象に、追加接種（3回目接種）の機会を迅速に提供していきます。

また、5歳から11歳の子どもたちへのワクチン接種体制の準備も進めてまいります。

健康増進・福祉の充実については、こども育成支援センターが中心となり、不登校やひきこもり、発達障害者等の課題に対して、関係機関と連携した支援の充実を図ります。

笠間市長 山口 伸樹

児童虐待については、未就園児や中学卒業後の子どもたちの状況把握を積極的にを行い、切れ目ない支援体制の強化や希望する家庭への訪問相談を重点的に実施してまいります。



ムラサキパークかさま

在宅療養者やがん患者の社会生活上の不安や負担を軽減するため市独自の事業を構築し、支援体制の充実を図ります。

教育の振興については、学校法人との連携・協力により、みなみ学園義務教育学校

南小校舎跡地を活用し、2022年春に通信制高等学校を開校します。

また、スポーツによるまちづくりを推進し、笠間スポーツコミッションと連携して、大規模大会の誘致やイベントの開催、スポーツ人材の育成などを進めます。また、プロスポーツチームと連携協力して、地域振興、市民の健康増進を図ります。

❖ まちづくり

持続的な活性化につながる都市基盤の構築と活用による「まちづくり」を進めます。

都市基盤の整備については、南友部平町線の全線開通、来栖本戸線などの早期完成に向け、生活を支える道路整備を進めます。生活環境の整備について、災害活動拠点としての機能を発揮できる岩間消防庁舎の整備を進めます。

また、安全安心な水道水の安定供給を図るため、穴戸浄水場の更新、配水池の整備を進めます。

廃棄物処理においては、持ち込みごみ処理手数料の見直しを進めるとともに、ごみ処理施設の統一、し尿処理施設の効率的な処理体制の検討を進めます。

自治体運営については、「選択と集中」を徹底し、効率的で質の高い行政サービスを提供していくため、公民連携を進めます。また、行政のデジタル化を推進し、窓口手続きの効率化や医療・福祉に関するオンライン相談など、次世代型行政サービスを推進します。

広域行政については、これまでの取り組みを踏まえつつ、県央地域全体で発展していくため、連携中枢都市圏形成に係る連携協約の締結など、中長期的な将来像に基づく施策を展開します。

❖ ものづくり

稼ぐ力の強化と所得向上につながる地域経済の活性化による「ものづくり」を進めます。

産業の振興については、昨年までに茨城中央工業団地などに12社の企業進出が決定し、そのうち6社が操業しています。地域経済の活性化や雇用機会創出のため、北側区画への誘致活動を県と連携して進めてまいります。

地場産業については、伝統的工芸品「笠間焼」の英国などへの海外販路開拓の推進、稲田みかげ石の活用など、積極的な情報発信や支援等に取り組めます。



笠間栗ファクトリー イメージ

また、「笠間の栗」のブランド強化（第2弾）や、笠間市産花きの活用拡大支援など農産物の販路拡大やブランド力向上、栗の加工施設「笠間栗ファクトリー」の整備など6次産業化に向けた取り組みを進めます。

観光の振興については、笠間の自然を感じてもらい観光施設を巡るツアーや、自転車でも市内を周遊するツアーを造成するなど、県内・東京圏からの誘客促進を進めます。

また、インバウンドにつきましましては、笠間台湾交流事務所を拠点としつつ、周辺自治体と広域連携し、SNSによる継続的な発信などに取り組めます。

道の駅については、観光ゲートウェイの役割の充実や農産物直売による農業者所得の向上、地域資源の発信などの質的向上に向けて取り組めます。

以上、本年のまちづくりへの抱負の一端を述べさせていただきました。

江戸時代の安永年間から続く、関東最古の産地として繁栄した笠間焼が、誕生250年を迎えます。先人たちが、たゆまぬ努力と苦勞を積み重ね、想像する力をもって新しいものを生み出す挑戦を続けてこれたことに、深く敬意を表します。

先人たちの教えを継承し、将来に希望を持ち、豊かに暮らせるまちを創るために、市政運営に取り組んでまいります。

笠間焼誕生 250 年



笠間焼

結びに、本年も本市への変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様にとりまして希望に満ちた年になりますよう心からお祈り申し上げます。挨拶といたします。